

中高生の妊娠相談を

産科医療機関でつくる「あんしん母と子の産婦人科連絡協議会」（本部・埼玉県）が、18歳以下の女性を対象に、無料で相談や初診を受け付ける事業を始めた。全国20の医療機関が参加する。予期せぬ妊娠をした中高生らを保護し、乳幼児の虐待死を防ぐ狙いだ。

厚生労働省によると、2018年度に虐待で死亡した18歳未満の子どもは、全国で54人（心中以外）に上った。未成年の母親が加害者になったケースが4例あり、同省の専門委員会は「養育能力が足りない10歳代の妊娠は、虐待リスクが高くなる一因」と指摘

全国20医療機関

無料で初診 匿名も可

している。協議会によると、妊娠が中高生の場合、誰にも相談できず孤立を深めたり、初診料を払えずに医療機関を受診しなかつたりするケースもあるという。

相談、初診の受け付けは、体制が整った医療機関からスタート。助産師や看護師ら妊娠・出産の専門スタッフが、電話やメールなどで相談に応じる。直接の来院も可能で、妊娠の検査や医師の問診など、初診にかかる費用は医療機関側が負担し、匿名でも受診できる。妊娠がわかった場合は出産の意思を確認し、養育が難しい時は協議会が手がける養子縁組あっせんを含め支援する。

北海道	慶愛病院（帯広市） 森産科婦人科病院（旭川市） 札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル（札幌市北区）
茨城	ひたちなか母と子の病院（ひたちなか市）
埼玉	なないろレディースクリニック（つくば市） さめじまボンディングクリニック（熊谷市）
千葉	恵愛病院（富士見市）
東京	くぼのやウイメンズホスピタル（柏市）
神奈川	東府中病院（府中市） 新横浜母と子の病院（横浜市港北区）
石川	荒木病院（小松市）
愛知	産院いしがせの森（大府市）
三重	ヤナセクリニック（津市）

◆ 中高生向けの妊娠相談事業を実施する
主な医療機関

協議会の飯島浩二代表は「コロナ禍で休校になったこともあり、予期せぬ妊娠をする中高生は増えている可能性がある。悩みがあったら迷わず、最寄りの窓口相談を」と話している。医療機関の連絡先は、協議会のホームページ（<https://anshin-haha.toko.jp/>）で確認可能。